

# 令和3年度第2回 秋田市在宅医療・介護連携セミナー アンケート結果

開催日時：令和4年1月22日（日） 14:00～16:00

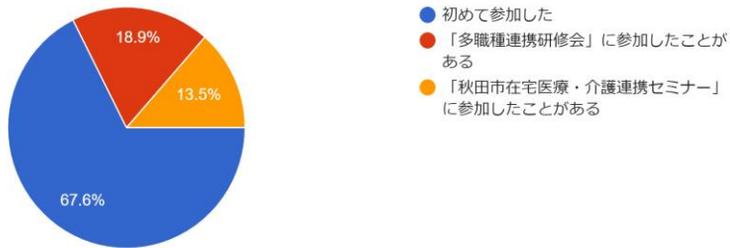
開催形態：オンライン（zoom）研修

参加者数：61名（医師8名、歯科医師5名、薬剤師3名、看護師13名、介護支援専門員6名、包括職員5名、ソーシャルワーカー3名、管理者1名、相談員4名、介護職員8名、歯科スタッフ4名、その他1名）

回収率：60.6%

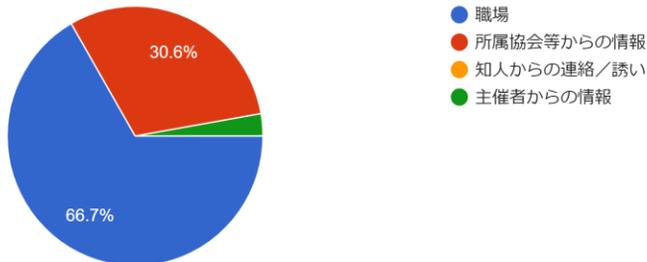
## 1. 本センターが開催するセミナー等への参加について

37件の回答



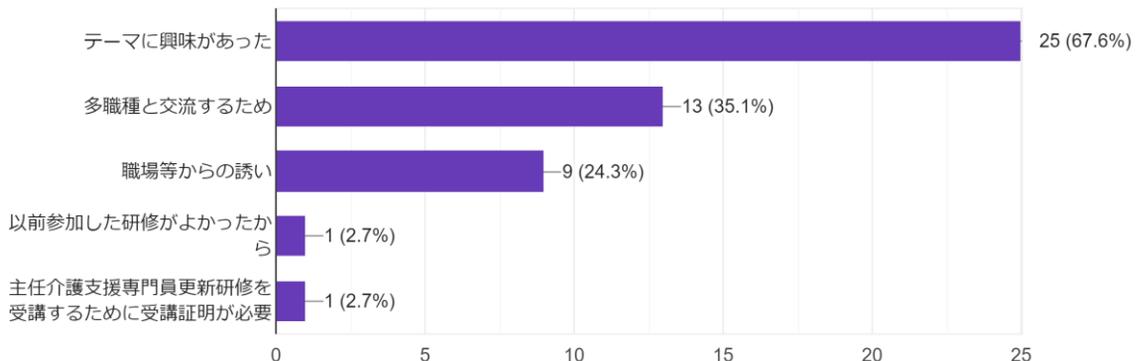
## 2. 本日のセミナーはどちらでお知りになりましたか

36件の回答



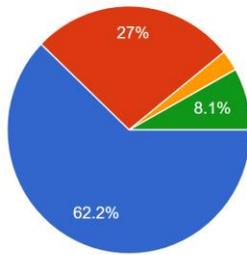
## 3. 本日のセミナーに参加した理由をおしえてください

37件の回答



#### 4. どのデバイスから参加されましたか

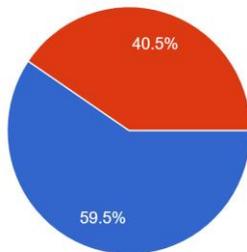
37件の回答



- 職場のパソコン
- 自宅のパソコン
- スマートフォン
- タブレット端末

#### 5-1. 本日のセミナーの感想について（講演）

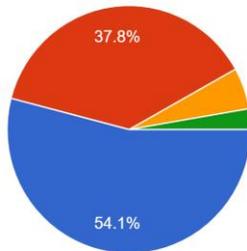
37件の回答



- とても参考になった
- 参考になった
- どちらともいえない
- あまり参考にならなかった
- 全く参考にならなかった

#### 5-2. 本日のセミナーの感想について（グループワーク）

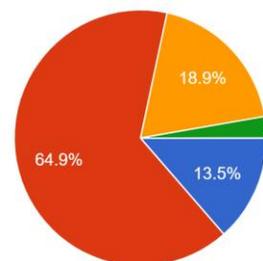
37件の回答



- とても参考になった
- 参考になった
- どちらともいえない
- あまり参考にならなかった
- 全く参考にならなかった

#### 6-1. 身近では多職種連携が図られていると思いますか

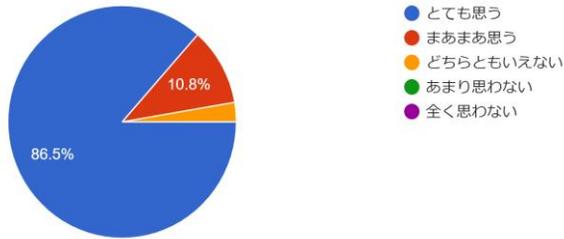
37件の回答



- とても思う
- まあまあ思う
- どちらともいえない
- あまり思わない
- 全く思わない

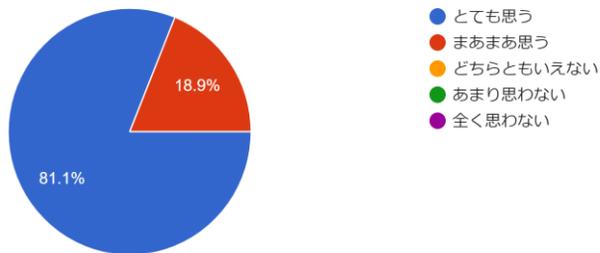
6-2. 多職種連携の推進が必要だと思いますか

37件の回答



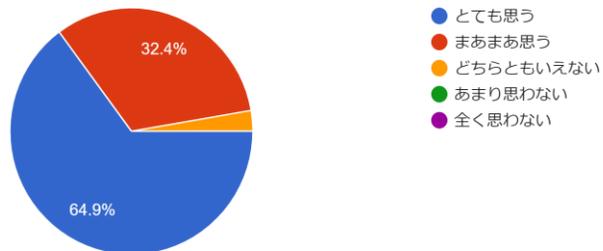
6-3. 本日のようなセミナー開催は多職種連携に有効だと思いますか

37件の回答



6-4. 多職種による親睦の機会は連携のために有効だと思いますか

37件の回答



## 5-1. 本日のセミナーの感想について（講演）

- ・救命士の方が横向きで車酔いするとお聞きして安心しました。
- ・救急隊、医師から直接話が聞けて勉強になった。
- ・緊急要請の経験がなかったため参考になりました。
- ・隊員との意見交換ができた。
- ・救急車の利用ということもなかったですし、施設内での救急搬送の事例が多いということも学ぶことができよかった。
- ・救急要請をすることがあるが、ポイントをきちんと押さえておくことが重要だと再認識することができた。
- ・救急隊の方と救急時以外に会う機会がなかったため、こういった思いで現場で対応をしているのかなどの意見を聞くことができ参考になりました。
- ・医療機関としては立ち位置が難しい研修だった。
- ・救急車要請時についての流れを再確認する事ができた。
- ・患者さん等多くの方々にお伝えしたい知識が増えました。
- ・救急車を呼ぶべきかの判断基準について教えてもらい大変参考になりました。
- ・医療介護連携において要になる内容だった。
- ・直接救急に関わる隊員から話が聞けたこと。
- ・改めて職場の救急時対応マニュアルを作成する必要性を感じました。
- ・救急要請した住所が分からなくても携帯電話位置情報で画面に表示される最新システムが導入される事が分かったので。
- ・救急隊内容がよく分かった。
- ・実際の場面が想像できた。
- ・救急車手配時の動きについて大変参考になりました。
- ・知らないことがたくさんあって学べた。
- ・救急搬送する際の不安が払拭されるような内容だったので。
- ・救急要請から施設等への到着の間の動きがよく分かった。
- ・わかりやすく参考になりました。
- ・施設の方の急変時職場の指示を受けてから救急要請という話に考えさせられた。
- ・実演ビデオにより、通報後の流れや救急隊の動きがわかった。
- ・様々な業種の方の考えに触れられたから。

## 5-2. 本日のセミナーの感想について（グループワーク）

- ・知らないことが知れてよかった。
- ・多職種の体験談を聞くことができ、とても参考になりました。
- ・話し合いがあまりなかった。
- ・他の施設の経験を聞いて参考になった。
- ・施設により、マニュアル、連携のとり方に違いがあるのだということがわかった。
- ・救急隊の方や先生など直接、話を伺うことができとても参考になった。
- ・医療機関としては立ち位置が難しい研修だった。
- ・グループワークで様々な意見や経験を聞く事ができた。救急隊の方の意見も聞くことができた。
- ・様々な業種の方々のお考えに触れる良い機会となりました。
- ・救急隊員から直接話を聞けたため。
- ・ファシリテーター講師役がいてよかった。
- ・職種が多岐で、いろんな立場からの考えが聞けた。
- ・救急車を呼んだ時の対応の仕方が理解できました
- ・重症度より緊急度（例 転倒した人が自力で起き上がれない等）で救急車要請の判断材料になることが分かりました。
- ・他職種の対応ついて理解できた。
- ・全体的にわかりやすい内容でした。
- ・他の業種のかたの苦労が少しわかったように思います。
- ・他事業所の方々の状況が知れた。
- ・普段関わることが少ない職種の方と話せるのは楽しかったですし、新たな発見がありました。
- ・多職種の意見が直接聞けて大変参考になった。
- ・他の職場や医師からの話を聞くことが出来たから。
- ・他機関の方々のお話が聞けたのが良かったです。
- ・音声が入れられなくて、気になって十分な参加になれなかった。

- ・パソコンの都合で発言参加できなかったが、皆様のグループワークやまとめなど大きくことができました。
- ・様々な立場からの考えを聞いた。
- ・介護施設の実態がわかった。

## 7. 多職種連携の推進に、より有効だと思えることがあればおしえてください。

- ・直接、話をする機会を持ち、共通の問題について意見を出し合う事。実践する事。
- ・お互いの意見を交換する機会があればいいと思います。
- ・状況に応じた適切な対応が出来る。
- ・このようなグループワーク。
- ・現在の情勢では難しいが、小規模の研修会や部門別研修で互いの職域を行き来できる機会があるとよいのでは。
- ・それぞれの役割、必要性をお互いに確認し理解する。
- ・30分だけのグループワークでも大変価値がありました。話をする機会が多ければ多いほど良いと思います。
- ・今回のような研修を重ねること。
- ・地域ごとの連携セミナーのようなものの開催、あるいは施設形態による違いが大きいので、老健とか、特養とかの類型別協議会など。
- ・若い世代に興味を持ってもらい、たくさんの職種の方に参加していただくこと。
- ・共有できる場所をSNSなどでおこなうと交流できるかもと思います。
- ・今回のような研修や、いろいろなふりかえりを出来ればより有効だと思った。
- ・よりリアルで細かい所までの情報共有をすること。ナースによって細かい考えが違い困ったことがある。
- ・すみませんが、いい考えは浮かびません。
- ・誰のために連携が必要なのか、何のための目的で連携しなければならないのか、きちんと理解することが大切だと思います。目的をはっきりさせたうえでの多職種間での話し合いは有効だと思います。
- ・よりスピーディーに問題解決に至ると思う

## 8. 取り組んで欲しいテーマや内容、セミナーの進め方などがあれば記入して下さい。

- ・介護福祉から医療機関へ、その逆の発信でもよいので日ごろの疑問を出して検討できる機会があれば良い。必要な情報の見立てが違うことが行き違いを生んでいることもあるので。
- ・やはり、司会進行は慣れた方がやってくるとスムーズにいくかと思われました。
- ・各病院、施設でやれること、やれないこと、限界値について。
- ・なかなかお会いできない職種の方々の情報が知りたい。
- ・始まる前に音声と映像チェックしやりとりできる状態にしてから始めてほしいです。

## 9. その他ご意見、ご感想を自由にお書き下さい。

- ・グループワークが有意義でした。今後の業務に活かしていきたいです。
- ・自身は薬局薬剤師のため施設に入居されているかたの状況などなかなか入り込めず把握することが難しい。顔の見える関係性ができれば良いなと思いました。
- ・本日のセミナーでは、緊急時の対応として自分の対応を振り返る機会にもなり、参考になりました。
- ・貴重な経験でした。緊急時の対応について職場で再確認していきたいです。ありがとうございました。
- ・進行支援役の方から継続して多職種が話をする機会を作りたいとおっしゃってました。私もその意見に大いに同意いたします。
- ・救急との連携は非常に大事で、今回いいテーマでした。個人的な感想ですが、本県で女性救急救命士第1号の奥山和貴子さんが大きく成長する姿を見て、感慨がありました。
- ・今回、パソコンの不調から画像が映らなくなったり、声が聞こえなくなったりトラブルが発生し、グループの方々にご迷惑をおかけしたことを深くお詫びいたします。
- ・救急・消防隊員の皆様がいるおかげで、秋田市民の生命が一人でも多く救われているのだと感じています。特に、今冬は市内の積雪量が多く道路状況の悪い中での任務は、いつも以上に緊張感があり大変だと思いますが、今後とも隊員の皆さんが健康体で活躍されることを期待します。